

屋内出展検討事項案(ご意見をいただきたい項目について)

2023 年ドーハ国際園芸博覧会(ドーハ 2023) 屋内出展基本方針 骨子 (令和 2 年 3 月 16 日 日本国出展委員会資料)	骨子案を踏まえた検討 (ご意見をいただきたい項目)
<p>1. 基本的考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外出展と一体となった出展とする。(展示施設内に展示) ・ 日本の花き園芸文化の魅力を伝えるとともに輸出拡大につなげる。 我が国の多様で高品質な花き、花き園芸技術、緑化技術、そして奥行きのある花き文化を発信するとともに、国産花きの輸出拡大に取り組む。 ・ 被災地復興支援への感謝と横浜国際園芸博の PR カタールの東日本大震災への支援(資金提供と LNG・LPG の追加供給)に感謝して被災地で生産された花きの展示により被災地の復興を示すとともに、2027 年横浜国際園芸博を PR する。 	<p>○基本的考え方に関する検討(例)</p> <p>日本の花きや緑化等の技術を「Green Gift From Japan」として展示(左記の委員会で設定された日本展示のテーマ)。それを踏まえ、以下を検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外出展と一体となった屋内展示のあり方(屋外・屋内が物理的に分かれる場合の一体性の検討) ・ドーハ国際園芸博覧会のテーマ、サブテーマ(後出)との関連 ・輸出拡大につながる日本の花き園芸文化のファン・理解者づくり ・我が国の優れた花き・花き文化の発信に当たり留意すべき事項(自然との調和、持続的な生産、世界でも最先端の開発技術等強調すべき項目) ・被災地復興の紹介、2027 年の国際園芸博覧会の PR についての対応方針(効果的な手法) ・その他考慮すべき事項(新型コロナウイルス流行下での花きの効用の強調等)
<p>2. 展示・催事等の内容と方法</p> <p>(1) 展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の豊かな四季を表現する。 ・ 出展者(地方公共団体、民間団体等)の特色を活かすとともに、開催国の関心に応える展示とする。 ・ 実物や写真、映像等の様々な媒体を組み合わせる来場者の記憶に残る展示とする。 ・ 展示品の知的財産権に配慮する。 	<p>○展示・催事等の内容と方法に関する検討(例)</p> <p>(1) 展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博覧会の全体テーマ及びサブテーマに関連のある展示の検討 <p><全体テーマ></p> <p>緑の砂漠、よりよい環境</p> <p><サブテーマ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①最新の農業(革新、研究、科学的進歩 等) ②テクノロジーとイノベーション(化石燃料使用からの脱却 等) ③環境意識(天然資源の保護 等)

④持続可能性(様々なニーズに対する対応 等)

- これらのテーマに沿った展示が必要であり(サブテーマについても少なくとも一つを採用することとされている)、革新的な農業技術、砂漠化に対応した緑化技術等、関連する展示を検討
- ・日本の豊かな四季など我が国の花き文化を生み出した背景等の表現方法
 - ・記憶に残る展示のための媒体(実物、写真、パネル、映像等)の効果的な活用方法。特に花き等実物以外のもの(先端技術等)の効果的な展示方法
 - ・会期が秋から春(10月～3月)であることを踏まえた展示用花きの確保(最近ではチェンマイ国際園芸博覧会が2006年11月～1月に開催)
 - ・屋内展示は、カタール側が用意する施設内の一画(200 m²想定)で実施することを想定。10月以降の高い気温に対応した適切な温度管理(展示区画、バックヤード)
 - ・展示用花き等の現地調達の可能性
 - ・2027年国際園芸博覧会のPR
 - ・知的財産権の侵害を招かないための留意事項等
 - ・その他考慮すべき事項(新型コロナウイルス対策等)

(2)輸出拡大に向けた取り組み

- ・カタールとの花き類の貿易額は少なく、中東全体でみても、1400万円(2021年)の輸出額となっている。中東地域からの輸入は2.6億円(同)であるが、その大部分はイスラエルから。
- ・カタールの花き類の輸入額は切り花、植木類を中心に3,450万USドル(2020年)となっている。
- ・取引拡大につながる効果的な方策について(商談スペースの確保、バイヤー情報の収集と出展者等への還元、情報交換会の開催など)
- ・商業活動(販売)スペース確保と関連品の販売方策について

(2)輸出拡大に向けた取り組み

- ・問い合わせ先の表示、名刺入れの設置などにより取引拡大につなげる。
- ・日本出展の記憶に結びつく来場記念品や園芸関連品の販売を行う。

<p>(3)催事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会式、ナショナルデー、閉会式では、生け花、フラワーアレンジメントのパフォーマンスなどにより日本の花き園芸文化を発信する。 	<p>(3)催事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会式、ナショナルデー、閉会式における演出、パフォーマンスについて ・その他催事の実施(華道、茶道、盆栽選定など。実演や体験なども含む) ・催事プログラムにおける 2027 年国際園芸博覧会のPR
<p>3. 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌などの紙媒体、ウェブ、SNS など多様な媒体を活用し、日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、各種コンテストの結果等を情報発信する。 ・ 日本国内で積極的に情報発信する。特に花き園芸関係者へ周知する。 ・ 開催国の来場者に対し、展示だけでなく、花き園芸についてインフォメーションカウンターやウェブで広く情報発信する。 	<p>○広報活動に関する検討</p> <p>【開会前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web、SNS、メディア等の活用による国内向け広報(出展者、参加者向け)のあり方 ・海外への情報発信の手法 <p>【会期中・会期後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の展示・催事、コンテスト結果等の情報発信のあり方(Web等の活用。展示者、展示内容、受賞結果等のPR。国内、海外向け) ・会場での情報発信のあり方(インフォメーションカウンターの設置等の手法、提供情報の内容等) ・TV番組等メディアを活用したPR
<p>4. 専門スタッフ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門スタッフを配置して展示花きの品質を保つとともに、将来の花き園芸業界を担う人材の育成と交流の機会とする。 ・ 専門スタッフを含めた関係者による展示替えの作業が深夜としない展示計画とする。 ・ 現地の日本人コミュニティにボランティア参加などの協力を求める。 	<p>○専門スタッフ等に関する検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示品の品質保持等、展示の成功のための人材確保方策 ・国際園芸博覧会の機会を活用した我が国の花き関係業界の人材育成のあり方(展示ノウハウ、最先端の技術に係る経験、海外との人脈づくり等) ・現地の協力者の確保方策等
	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内展示についてその他留意すべき事項等